

全国商工会議所青年部連合会  
〒100-0005東京都千代田区丸の内3-2-2  
「日本商工会議所中小企業振興部内」  
TEL 03-3283-7847

広報委員会  
担当副会長: 首藤 俊一郎 委員長: 山本 和正  
宮田 豊和 / 安藤 秀男 / 大西 一司  
笠間 清 / 山下 仁規 / 水溜 真樹



Symbol/Logomark

これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンブルで馴染み深いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名 (Young Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト (若さ、情熱、広い視野をもった経営者=Youth, Energy, Generalist) を表しています。

# しょうせい 翔生

## 会長・次年度会長挨拶

会長挨拶・二年を振り返り

「連携YEG 実践展開「バーチャルからリアルへ」のもと、意義深い二年間、皆様に感謝。」

平成13年度  
全国商工会議所青年部連合会  
会長 古泉 幸一



「連携YEG 実践展開「バーチャルからリアルへ」のスタートの二、三年間を会長として活動の場をいただきました事、ここにあらためて全国のメンバーに感謝申し上げます。

全国の皆様と本当に数多く出合いをさせていただき、交流を重ねていただいたおかげで二年間を思いのほか早く過ごさせていただきました。春の各ブロックで開催をされました会長会議や各ブロック大会では、各地における単会がいかにも多くの地域の問題に対し、真剣に考え行動されているか、あらためて深い認識をさせられてきた。地域によって考え方も、また問題点もかなり違っています。ただ、我々YEGは本当に地域に必要とされている事だけは変わらないと感じました。

事あるごとに申し上げてまいりましたが、13年度には正式に日本商工会議所の定款に全国商工会議所青年部連合会が記載されました。日本商工会議所とは、国が認めた唯の経済団体であることは、皆様をご存知の事と思います。その一員として迎えられたことは、商青連を国が認

めて頂いたということになります。その意義深さに改めて事の重大さと、今後の活動の自信となつてこみ上げてまいります。

青年部という組織は、「自分たちの経済環境を考える」ことが第一であるというのが私の持論であります。残念ながら経済環境という点からは非常に厳しい一年となつてしまいました。すべてにおいて歯車のかみ合わない、何か釈然としない重苦しい空気に包まれているように思われます。アメリカで起きた同時多発テロが、私の誕生日に起きたという嫌な事実から、大手量販店やゼネコンなどの倒産と、今までは考えられない事態がおきてまいりました。そんな中での団体活動ですから、無理や無駄を極力避けなければならぬと思っております。また商青連の各種事業や大会において各単会の会長様にはたぶんにご苦労をされたことと思っております。本当にありがとうございます。

各地の商工会議所青年部のメンバーにおかれましては、それぞれが違った目的を持ち、違う考えをお持ちだと思っております。だからこそ議論ができ、実りある交流ができるのだと思います。人と接し、交流することで自分自身が大きく変われると思っております。できることなら一人でも多くの皆様と接しあうようなことができれば良いと考えます。そのために、この商青連があるとすれば素晴らしいことだと思えます。どうか今後とも商青連にご理解を頂きたいとお願いたします。二年間ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

次年度会長挨拶・次年度への抱負

「立ち止まるな！そして胸を張れ！ YEGs, be ambitious」のもと、突き進む！

平成14年度  
全国商工会議所青年部連合会  
会長 大脇 唯真



全国の皆さん！本年度は各地に於きまして大変お世話になり、誠に有り難うございました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。平成13年度は筆頭副会長という立場を含め行脚を遂行しました。平成12年度を全国行脚と既に、日本を四回周らせて頂いております。全国を網羅するこのYEGネットワーク、全国各地にお伺いすることで多くの仲間と触れ合い、語ることで初めて見えてくる実状があります。

次年度は商青連の会長として、皆様と膝を交えることができる幸福を胸に抱きつつ挑む覚悟でおります。「三万人の為の商青連！商青連の為の三万人！」常々詠わせて頂いておりますが、次年度は「立ち止まるな！そして胸を張れ！ YEGs, be ambitious」という精神面に問いかけるスローガンを掲げさせて頂いております。疲弊したこの経済社会、迷宮を彷徨うかのようなアプレスパイラル……このスローガンは困難な状況を乗り越えて、地域活性化の原動力を担う青年経済人の意気高し！の志を込めたものであります。そしてその目的達成のために、各単会或いは県連からのポ

ムアップと商青連から各地への確かなフィールドバック、この双方向の原理がしっかりと絡み合うことが、本来の我々の組織であると思っております。ラグビーというゲームの突破とは、敵が強ければ強いほど困難を極めるものであります。目的はゴールラインにトライを決めることです。そこへ辿り着くまでの、心の連携というパスを楽しもうではありませんか。きっと、その中でお互いを認め合う姿勢や次への大いなる勇氣、或いは野望が、芽吹き始める筈です。

来る平成14年度、二生に二度の通過点であります。どうせ通り過ぎるのであれば悔いの残らぬよう、無駄の無きよう、元氣良く爽快に突っ走ろうではありませんか。折しも平成14年度は日本と韓国に於いてワールドカップが共催されます。製造業の空洞化も深刻化してきておりますが、アジアの壁を取っ払い、共存共栄の新たな道を開拓することもまた、我々青年経済人に課せられた使命であります。どうか、皆さん！確かな手応えを求め、日本商工会議所全国商工会議所青年部連合会の一員であるという誇りをそれが持ち、大きな飛躍への一歩を踏みしめることが出来ますよう、心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが、次年度は商青連設立20周年を迎えます。歴代の先輩諸氏が築いてこられた偉大な功績とそこへご尽力に、心から敬意を表します。第20代の会長として、YEGに誇りを持ち、突き進む事をお約束申し上げます。私の抱負とさせていただきます。

「ALL FOR ONE! ONE FOR ALL!」

## 平成14年度 商青連役員名簿

商青連役職			氏名			YEG名(県名)													
会 長	大脇 唯真		鹿児島(鹿児島)		総務委員会	委員 長		阿部 幹郎		福島(福島)									
	直前 会 長	古泉 幸一		亀田(新潟)		副委員 長		塚本 功治		出雲(島根)									
		副 会 長	鈴木 倭介			小田原(神奈川)		委 員		松浦 富雄		島田(静岡)							
			副 会 長	永桶 裕明		美 唄(北海道)		委 員		福井 智一		栃 波(富山)							
				副 会 長		大村 利和		宮 津(長 都)		委 員		藤田 英則		松 代(長野)					
						副 会 長	中塚総一郎		児 島(岡山)		委 員		中山 俊一		青 森(青 森)				
							専 務 理 事	宗野 和博		久留米(福 岡)		委 員		川西 嘉則		長 崎(長 崎)			
								監 事	加城 祐史		網 走(北海道)		委 員 長		清水 雅文		倉 吉(鳥 取)		
									監 事	上田 崇仁		北 松(長 都)		副委員 長		丸山 信仁		御 坊(和歌山)	
										ブ ロ ッ ク 代 表 理 事	北 海 道		国枝 恭二		帯 広(北海道)		委 員		関 学
東 北		鈴木 順三		弘 前(青 森)		委 員		林 洋三			福 井(福 井)								
関 東		山田 雄道		沼 津(静 岡)		委 員		森田 展旦			守口門真(大 阪)								
北 陸 信 越		速藤 真弘		諏 訪(長 野)		委 員		小鯖 利弘			釜 石(岩 手)								
東 海		牛丸 圭五		高 山(岐 早)		委 員		足立耕太郎			米 子(鳥 取)								
近 畿		中村 寿志		長 浜(滋 賀)		委 員 長		杉本 定幸			彦 根(滋 賀)								
中 国		仁田 一郎		広 島(広 島)		副委員 長		斎藤 雅			深 川(北海道)								
四 国		味本 隆		高 知(高 知)		委 員		服巻 芳史			小 城(佐 賀)								
九 州		松下 一郎		枕 崎(鹿児島)		委 員		福西 定敏			横須賀(神奈川)								
						企 画 委 員 会		委 員			飯田 伸一		七 尾(石 川)						
						研 修 委 員 会		委 員		佐藤 正信		桑 名(三 重)							
								委 員		岡崎 育史		奈 良(奈 良)							
								委 員		高田 秀穂		広 島(広 島)							
								委 員		松内 雅博		徳 島(徳 島)							
								委 員		安田 喜好		須賀川(福 島)							
								委 員 長		東口由美子		加 賀(石 川)							
								副委員 長		川口 裕		五 泉(新 潟)							
								副委員 長		岩切 正司		宮 崎(高 鍋)							
								委 員		鳥潟 功		大 館(秋 田)							
								委 員		島岡 宏明		土 浦(茨 城)							
								委 員		田中政明喜		津 島(愛 知)							
								委 員		守岡 正彦		赤 穂(兵 庫)							
								委 員		秋山 浩志		丸 亀(香 川)							
								委 員 長		石原 一夫		伊勢崎(群 馬)							
								委 員		西岡 一明		日光地区(栃 木)							
								委 員		梶谷 俊介		岡 山(岡 山)							
								委 員		河野 隆文		防 府(山 口)							
								委 員		越智 英俊		東予市(愛 媛)							
								委 員		定石 光治		行 橋(福 岡)							
								委 員		平田 雄二		玉 名(熊 本)							
								委 員		屋良 学		浦 添(沖 縄)							
								委 員 長		伴田 宏		村 上(新 潟)							
								副委員 長		山本 博美		綾 部(京 都)							
								副委員 長		鳥越 繁一		津久見(大 分)							
								委 員		西村 裕行		塩 釜(宮 城)							
								委 員		鈴木 吉彦		山 形(山 形)							
								委 員		田中 一幸		前 橋(群 馬)							
								委 員		町田 啓介		秩 父(埼 玉)							

## 平成14年度 年間スケジュール

	ブロック大会・全国大会・ 会員総会・全国会長研修会等	役員会・正副会長会議・ 委員会等	ブロック別会長会議	ブロック別 県連会長・ 商青連役員会議	備考
4月		19日(金)~20日(土) 第137回役員会等<鹿児島>	13日(土)四国<高知> 20日(土)九州<鹿児島> 26日(金)東北<弘前> 27日(土)北海道<帯広>		◎4月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 開催地選定、商青連が「主管立候補届」受理
5月		24日(金)~25日(土) 第138回役員会等<守口門真>	22日(水)中国<広島> 23日(木)近畿<加古川>		・青年部運営活動状況調査 ・商青連会費請求
6月			1日(土)関東<沼津> 6日(木)北陸<諏訪> 7日(金)東海<松坂>		◎6月末日まで 平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修会 「主管立候補届」を正副会長会議にて検討、審査し役 員に報告
7月	13日(土)~14日(日)●九州<枕崎>	24日(水)~25日(木) 第139回役員会等 <東京・東商ビル>			◎7月末日まで ・平成16年度全国大会・平成15年度全国会長研修 会主管地を役員会で決定 ・次年度ブロック大会開催予定の公示
8月	31日(土)●四国<土佐清水>				・機関紙「翔生」発行 ◎平成17年度全国大会(中地区) 平成16年度全国会長研修会 (西地区)開催希望照会
9月	7日(土)●東海<高山> 13日(金)●関東<沼津> 14日(土)~15日(日)●北海道<留萌> 27日(金)~28日(土)●近畿<長浜>				
10月	3日(木)~4日(金)●東北<福島> 10日(木)~11日(金)●北陸信越<諏訪> 18日(金)~19日(土)●中国<広島>	23日(水)~24日(木) 第140回役員会等 <東京・東商ビル>			◎10月末日まで 平成17年度全国大会・平成16年度全国会長研修会 開催希望をブロック代表理事が受理 ・10月末日まで 平成15年度役員候補者の決定
11月	8日(金)~9日(土) ●第22回全国大会<守口門真> ●第37回会員総会<守口門真>	第141回役員会等<守口門真>			
12月		3日(火)~4日(水) 第142回役員会等 <東京・第一ビル・シフト>			
平 成 15年					◎1月末日まで 平成17年度全国大会・平成16年度全国会長研修会 開催地を地区内ブロック代表理事会議にて一ヶ所に 選定(15年4月までに届出受理、正副会長会議で検 討、審査、7月役員会で開催地決定)
1月					
2月	7日(金)~8日(土) ●第20回全国会長研修会<柏> ●第38回会員総会<柏>	第143回役員会等<柏>			・機関紙「翔生」発行
3月					

上記以外に平成14年度役員予定者会議として

- 平成13年11月8日(木) 第1回役員予定者会議<小田原>(全国大会開催期間中)
- 平成13年12月6日(木)~7日(金) 第2回役員予定者会議<東京>
- 平成14年1月16日(水)~17日(木) 第3回役員予定者会議<浜松・カリアック>
- 平成14年2月8日(金) 第4回役員予定者会議<久留米>(全国会長研修会開催期間中)

## 山口会頭メッセージ



全国各地の青年部の皆様には、地域を支える経済人の一員として商工会議所活動に積極的にご参画いただいております。日頃より大変心強く感じいております。

現下、わが国は極めて深刻な経済状況の中で、日本経済を再び持続的な成長路線に戻すために構造改革に取り組んでおりますが、その手順や手法を誤ると、かえって経済をデフレ・スパイラルに追い込み、回復不能な状態に陥れてしまう危険があります。

現在の不況の原因は需要不足にあります。したがって、私は、構造改革を成功させ、再びわが国が「健康な日本」をとるもどすためには、当面実効ある大胆な景気浮揚策により経済の安定が確保され、その下でわが国経済の基礎を担う中小企業が本来有する創造性・機動力を十分に発揮できるように、また経営者が元気を取り戻せるように、金融・税制・事業支援制度などの拡充に万全を期すことが必要であると考えております。

申し上げるまでもなく、中小企業が活力を取り戻すことなくして、今後のわが国経済の発展はありません。中長期的な視点に立つて、新規創業支援をはじめ、中小企業が経営革新に積極的に取り組み、新しい分野や前向きの投資、技術開発に果敢に挑戦できるよう、潜在力を持ち意欲ある中小企業を大いに伸ばすための施策を重点的に実施することが重要であります。日本商工会議所としても、新規創業や中小企業の経営革新の支援に全力を挙げて取り組んでいく所存であります。柔軟な発想とエネルギー豊富な行動力、さらにはスピーディーな対応力、そして旺盛な企業家精神を持ち合わせる青年部の皆様におかれましても、是非とも明るい日本の未来に向けて、大いにリーダーシップを発揮し、今後のわが国経済の発展と、「健康な日本」の創造を目指してなお一層、ご活躍いただきますようお願いいたします。

今後とも、青年部の皆様からの一層のご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。

平成14年3月 日本商工会議所会頭 山口信夫

## 商工会議所の動き

### 外形標準課税反対 全国で署名運動スタート

日本商工会議所をはじめ経団連、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、全国商店街振興組合など74の経済団体で構成する外形標準課税導入反対協議会ではこのほど、法人事業税への外形標準課税導入問題について、全国で反対運動を盛り上げるため、大規模な署名運動を開始した。小泉内閣が今年1月から検討を開始した税制の抜本改革に経済界の意見、とりわけ中小企業の生の声を反映させることが目的。5月までの約3ヶ月間で全国の中小企業経営者やその従業員などを対象に署名を募り、政府・与党などに提出することとしている。

(本文)

法人事業税への外形標準課税問題については、各地商工会議所をはじめ、経済界を挙げて反対活動を行った結果、昨年末の平成14年度税制改正では、賃金・資本金などを課税標準とする総務省案は否定され、導入は見送られた。

#### 総務省案の主な問題点

- 法人のみ対象。取り易いところから取る安易な不公平税制
- 最大の課税ベースは「賃金」。雇用に大きな打撃
- 担税力を無視。赤字中小企業に約6,000億円を課す大增税
- 納税・徴税コストの増大
- 諸外国では雇用への影響を考慮し、相次いで廃止の方向

しかし、昨年末の与党税制改正大綱には「今後、各方面の意見を聞きながら検討を深め、具体案を得たうえで、景気状況等も勘案しつつ、平成15年度税制改正を目的にその導入を図る」と明記され、導入の火種が消えていない。

小泉内閣では、2002年を税制の抜本改革を行う年と位置付け、政府税調や経済財政諮問会議などで先月から検討を開始している。政府税調で6月を目的に改革の主要論点を公表。経済財政諮問会議では税制改革の「工程表」をまとめる予定となっている。その検討テーマの一つに、法人事業税への外形標準課税導入問題も含まれる可能性が高まっている。

このため、日本商工会議所では、従来以上に外形標準課税導入反対運動を全国的に盛り上げていくことが極めて重要と判断。中小企業団体や経団連などで構成している外形標準課税導入反対協議会でオール経済界として大規模な導入反対署名運動を展開することを決めた。

日商では、今後あらゆる機会を通じて導入反対を訴えることで、国民的な議論を喚起し、外形標準課税導入による影響の大きさなどについて広くPRしていく。署名運動は各地の商工会議所などを通じ、今年5月までの約3ヶ月間で全国の経営者とその従業員などを対象に行う。安易な不公平税制であると同時に雇用に悪影響を及ぼす賃金課税である同課税の根本的な問題点を示し、署名への協力を呼びかける。

# 委員会報告

## 総務委員会活動報告

1年間大変お世話になりました。本年度総務委員会では古泉会長の「開かれた商青連」との強い思いを受け、ホームページ上において商青連役員会の会議内容の公開、すべての規約・手引等の掲載、非公開ページ上に補助金に関する情報提供などを、日商事務局並びに広報委員会の協力を得ながら委員会メンバー一生命懸命努めさせていただきました。全国YEGの皆様に対し、微力ではありますが貢献できたものと思っております。

最後に当委員会では一年間採りだした今後の商青連のあり方の大きな2つの意見を報告して終わります。年齢制限について、商青連は各単会の連合で組織されているため強制は出来な

いが、日商の定款にも記載され、国内を代表する青年組織であるので、全国のYEGメンバーに活動の機会(チャンス)を均等に与えるためにも、望ましい会員年齢を明示すべき時がきたと考えます。また単会と親会とのあり方について商青連が日商の定款に記載されたことを受け、各単会と親会との最低限の望ましいあり方を商青連から各単会へ親会へ提示すべきであると考えます(案:親会の定款に青年部を記載する、親会の常議員会に青年部会長が議決権を持って参加する、等)以上2つの意見を申し送りますので次年度からの商青連でぜひとも検討いただきたいと思います。

## 企画委員会活動報告

私たち企画委員会は大協副会長のご指導のもと、7名のメンバーで活動いたしました。最大の目的は「商青連のなかで最大規模の事業である全国大会」「当年度の締め括りであると同時に、次年度の指針発表の場でもある全国会長研修会」この二つの大会の成功のお手伝いをする事です。言い換えるならば、主催者である商青連と主管される県連・単会との橋渡し役です。主催者として描いている大会コンセプトを主管される県連・単会の熱い想いと結び付けて具体的にどう実現していくか。この事を最大のテーマとして1年間取り組んできたわけです。

また、当年度の大会だけでなく、次年度或いはその翌年度の大会の開催地決定、基本的な枠組みの確認なども重要な仕事の一つでした。そしてこれらの事を通じて、商青連が考えてい

ること、目指しているものを全国の皆さんにご理解いただき、また一方で会員の皆さんが商青連に何を期待しているのか、どういう組織であって欲しいのかという想いを組織運営に反映させることが私たちに与えられた大きな課題であったように思います。1年という期間、あっという間に過ぎて充分な仕事が出来なかったのでは反省もしております。混迷を深めるこの時代、商工会議所青年部は何をすべきか、そしてその集合体である商青連はどうあるべきか?

ブロック大会、全国大会、全国会長研修会ははじめ、いろいろな場で全国の皆さんからいただいた熱いメッセージを確実に次年度にバトンタッチすることで1年間の活動を締め括りたいと思います。

## 研修委員会活動報告

13年度研修委員会では、「翔生塾」「ヤングリーダー研修会」を企画、運営させていただきました。研修委員会の事業は他の委員会と違い、事業の対象者が全国の一般会員ということで、「参加しなかった」と言ってもらえる魅力ある企画をたてることに重点を置き、取り組むことになりました。しかしその中で、いくつかの課題をいただきました。まず「翔生塾」に関しては、今年から日本商工会議所の定款に載ったことから、韓国のソウルで6月に開催された「第二回商工会議所世界大会」のからめて企画せよとのことでした。そしてさらに100人規模での参加をして欲しいとの日本商工会議所からの要望も加わりました。また「ヤングリーダー研修会」に関しては、予算を増額するのではなく、ブロック大会よりもいい講師を依頼して内容のあるものにせよとのことでした。これらの課題に、その後すべてにおいて困難な問題となつて我々委員会メンバーが苦しむことになるとは、年度当初において夢に思いませんでした。

1月に委員会メンバーの配属が発表された日からいきなり「翔生塾」の企画会議をしなければならないという、慌ただしいスケジュールでのスタートとなりました。それというのも6月上旬に開催するには、世界大会のエントリーの締め切りや航空券・ホテルの手配を考えて運賃したときに、2月に日程を決めて3月に公募を始めないと間に合わなかったからです。委員会でも話し合いを進めていくには、世界大会というお祭りのイベントと研修会を融合させる手法や、登録料が割高にならない方法など書き出したりのりがない、たくさん問題が出てきました。しかし、それらの問題と時間に追われながらも、一つ一つ解決していく企画においてはなんとか形を作ることができました。ただなんと言っても100人規模での開催という課題だけは、そう簡単に解決できる問題ではありませんでした。役員会でのしつこいでの登録依頼、アントレ委員会まわり、電話作戦などなど、考えられるすべての手段を使って委員会メンバー一丸となって最後の最後までお願い(すし)脅迫もありましたが)続けました。そして最終参加者90名と少し予定を下まわりましたが、ほぼ課題をクリアすることができたこと、参加していただいたメンバーに心から感謝しております。「翔生塾IN韓国」の事業本番では、研修という見地からは世界大会のため

に若干の足かせはあったものの、韓国の青年経営者との意見交換会、経済セミナー、産業視察など大韓商工会議所の多大な協力のもとで開催できたことで、内容の充実がはかれたのではないかと思います。また世界大会のワーキングセッションにおいての古泉会長のスピーチと青年部のアピール、そして参加メンバーの号令で全員起立したときは、とても感動しました。

次に10月には、「ヤングリーダー研修会」を開催しました。「翔生塾」が終わった時点ではまだ講師が選定できず、まったく白紙の状態でした。7月の役員会には絶対に上程して承認をもらわないことには10月開催をあきらめなければならなくなってしまうので、あせる気持ちばかりが先行しておりました。最近のブロック大会はかなりの大物講師をよんでいるので、それ以上という本当に限られてしまい、依頼をしてもその人物に順番に断られ続けるという事態に陥っていました。しかしそんなときにアプレナス委員長長の越智君の尽力のおかげで、「御楽天 社長 三木谷氏」という超大物講師に来ていただくことができ、上程期限ぎりぎりに企画書を完成することができました。当日の「ヤングリーダー研修会」には422名といつかつてないほどのメンバーに参加してもらうことができました。そして講師やコーディネーターやパネルディスカッションのパネラーなどを30代半ばの人で構成したことにより、非常に身近な観点で研修することができたのが、良かったのではないかと思います。また研修会終了後の懇親会においては、京都YEGの企画運営により、講師を囲み盛大に行うことができたことは、委員会メンバー一同たいへん助かりました。本年度の研修委員会事業において参加メンバーの皆さんが納得してもらえたかどうかには、いろいろな意見があるとは思いますが、至らない点も多々あったことを反省しておりますが、委員会メンバーに免じてお許しいただきたいと思っております。

研修委員長という大役を1年間させていただき、私自身が一番研修させていただいたのではないかと感じております。いろんな方に支えていただき、たくさんのYEGメンバーの参加をいただいたことをこの場をおかりして御礼を申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

## 広報委員会活動報告

平成13年度広報委員会では、青年部メンバーに広く商青連を知っていただくため、さらには役に立つ広報を目指し、機関紙「翔生」の編集・発行と商青連ホームページの企画・運営に努めてまいりました。

機関紙「翔生」に関しては、通常の記事に加えて、できるだけ身近に感じていただくため、各地のYEG事業を記事として取り上げました。また、発行時期が大変遅れたことは、委員長の不徳の致すところであり深くお詫言申し上げます。ただ、発行時期が大変遅れたことは、委員長の不徳の致すところであり深くお詫言申し上げます。

商青連ホームページ(以下HP)に関しては、HPを見れば商青連の動きがわかるよう努めてま

いりました。また、HPを見ていただくために試験的にメールマガジンを発行いたしました。

1年間という短い期間ではありましたが、以上のメディアで全国の皆様と対話できたことは、非常に有意義で、貴重な体験をさせていただきました。惜しむらくは、年度当初想定していた全国の単会事業をHPで紹介できなかったことが心残りです。また、皆様からお寄せいただいた企画・記事は、次年度へ申し送り事項とします。

最後になりましたが、記事・運営にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

## アントレプレナーズ委員会活動報告

今年度のアントレプレナーズ委員会、一年間の活動を振り返って、私自身が感じた事を率直に申し上げます。まず、本当によくやって頂いた副会長、副委員長、及び各委員の方々に深くお礼を申し上げます。当委員会は4月に全体で、120名余りで立ち上がり、人数が多ければやりたい事、考え方も様々で、テーマを絞り込みまとめるのに各部長、副部長、リーダーの方も大変ご苦労された事と思います。

今年度は「起業家精神が日本を変える…」というテーマにて、スタートしました。本当に起業家精神(起業家マインド)を理解された方と、殆ど理解されなかった方に分かれたのが、非常に残念でした。部長も意欲的な方と、そうでない人が出たという事は、私も反省し改善すべき事を学びました。日本人は、やる人間とやらぬ人間、そのどちらでもない人間の三つのタイプに別れるとよく言われますが、本当にそれが残念だと思います。しかし6部会のうち、意欲的積極的に取り組んで頂いた方々によって、アントレプレナーズ委員会の今年度の事業報告書が出来上がりました。取りまとめて頂いた、高橋副委員長、大変お疲れ様でした。このアントレの事業報告書を見て頂ければ、今年度の各部会の取り組み姿勢、熱意、そしてその成果が全国の青年部の皆様にも、ご理解頂けると思っております。

YEGは単に自分の事業の発展だけではなく、「連携と交流」を通して、次に何をなすべきなのか?これを特別委員会以3、4年間、自問自答して来ました。そこで私自身、昨年の7月8日9日、

創業者5名にて3つの会社wp立ち上げました。その一つは「伝説の車を造ろう」というプロジェクトの元に、日本で十数番目になる自動車のメーカーを設立しました。そしてその売上の一部を、難病の子供達の為の診療所、病院を建設しよう。「難病の子供達の為に何かできないだろうか」という考え、車好きの仲間が集まった会社です。難病の子供達には、専門の医師や病院が少ない、治療法や薬がない、保険が使えないのが現状です。そこでこの会社は、伝説の車を造ろうという事業を通して、「何か出来なだろうか?」という理念の元に始動しました。現在平成14年3月末に一号車が完成する予定で、4月に発表致します。これからの時代は、企業の人間貢献度が問われ、それが企業生命にも関わる問題だとされていますが、私自身言うだけの社会で終わる事なく、実践者として事業を通じて社会貢献を行えば、地域社会が、そして日本がよい方向に変わる一助になるのではないのでしょうか。現在社会には、数え切れない問題がありますが、YEGはそれに乗っ越え、様々な問題をビジネスチャンスとしてとらえる「起業家精神」と「自立創造型相互支援」という考え方を、地域や社会の為に自分が何が出来るかを事業を通して考え行動すれば、ピンチの中にチャンスは必ずあると信じます。

最後、YEGにおいては特に、次年度以降「事実」が「真実」となります様、願って止みません。今年度行届かない私を支え、最後までついて来て頂きました方々と、事務局を始め協力を賜りました皆様方に、この場をお借りして心より深くお礼を申し上げます。感謝・合掌

# YEGセレクション 決定!

受賞

## 平成13年度YEGセレクション決まる!

平成13年度YEGセレクションの受賞式が、  
2月9日、九州は久留米において、  
会員総会后、鈴木専務理事より発表があり、  
下記の8社の方が受賞され、古泉会長より表彰されました。



### (株) セゾンファクトリー

現代人の食生活をサポートしつつ「白いマヨネーズドレッシング」として女性層の販路拡大に努めた新しい試み



### (株) スペースクリエイション

製造業の商品開発やマーケティングサポートなど一貫した産業活性と企業の創業支援に貢献し、中小企業の脱下請けを提唱した試み



### 金升酒造 (株)

日本酒という伝統産業に女性や若者の新規顧客開拓について商品開発並びに容器開発を行った試み



### 福井インターネット (株)

インターネットのシステム独自開発による地域情報の配信により多くの地域住民に情報提供を行った試み



### (株) 三糧

雑穀を手軽に食べられるようにブレンドし、少量個包装することで、核家族化した現代家庭の食卓に提供した試み



### 三和マッチ (株)

現ウェブ上でギフト関連企業を集めより多くの顧客層を開拓したことと新規顧客層開拓により新しい業態を社会に創出させた試み



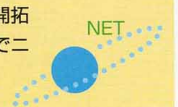
### (株) タカノ

日本の伝統的な工芸「漆器」を冷蔵庫から電子レンジまで対応させ一般家庭への普及に貢献した試み



### (有) 市政本店

ネット上で大型店の取り組めない販路を開拓し新しい市場開拓と専門に突出することでニーズの多様化に対応した試み



# 全国会長研修会 久留米会議

連携YEG実践展開 バーチャルからリアルへ



<b>研修会</b>
2月8日[金] 14:00~18:00 市民会館大ホール
■前泊者交流会 2月7日[木] 19:00~21:00 場所/創世
■大型親会 2月8日[金] 19:00~21:00 場所/翠香園ホテル
■会員総会 2月9日[土] 10:00~11:30 場所/翠香園ホテル



ル研修会を企画いたしました。当日は綿密な打ち合わせの中で出てきたYEGに関する当面する課題を参加者全員意見を取り入れてスライザー

でスライザー  
同研修会の運営につきましてはメンバーが一丸となり総力を挙げて進めて参りましたが、当日は何かと不行き届きがございました点ご容赦のほどお願い申し上げます。本会議の成果が全国YEGの皆さんに伝わり各単会の活動の糧となることをメンバー一同と願っております。また本研修会においては私達久留米YEG自身様々なることを勉強させていただきました。今後はこの貴重な体験を活かし、組織の活性化と町づくりに一層努力して参る所存でございます。皆様方には今後とも変わらぬ御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。  
最後になりましたが、全国会長研修会久留米会議の開催にご理解を頂いた商青連の皆様、さらに多大な御支援をいただいた皆様ならびに関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

加型のアナライザーシステムによるデジタル研修会を企画いたしました。当日は綿密な打ち合わせの中で出てきたYEGに関する当面する課題を参加者全員意見を取り入れてスライザー

さて久留米YEGでは、会長研修会誘致決定に当たりこの会長研修会の意義を実行委員会メンバーとともに論議し「参加者全員が堂に会し、全員で討議し結論を導く」方式を考え、全員参加型のアナライザーシステムによるデジタル研修会を企画いたしました。当日は綿密な打ち合わせの中で出てきたYEGに関する当面する課題を参加者全員意見を取り入れてスライザー

同研修会の運営につきましてはメンバーが一丸となり総力を挙げて進めて参りましたが、当日は何かと不行き届きがございました点ご容赦のほどお願い申し上げます。本会議の成果が全国YEGの皆さんに伝わり各単会の活動の糧となることをメンバー一同と願っております。また本研修会においては私達久留米YEG自身様々なることを勉強させていただきました。今後はこの貴重な体験を活かし、組織の活性化と町づくりに一層努力して参る所存でございます。皆様方には今後とも変わらぬ御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。  
最後になりましたが、全国会長研修会久留米会議の開催にご理解を頂いた商青連の皆様、さらに多大な御支援をいただいた皆様ならびに関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

御礼

全国会長研修会久留米会議大会会長 福田有史

若き経済人が、夢語った。仲間の顔が見えてきた。みんなの思いが、聞こえてきた。「久留米会議」！



▲次年度柏会議PRの様子



▲パネルディスカッションの様子



▲アトラクションの様子



▲大型親会の様子



▲通常会員総会の様子



▲通常会員総会の様子

# コミュニティビジネスと委員会活動

日本経済の再活性化のための  
雇用創出型の構造改革を目指す！

新世紀に入っても日本の景気は低迷を続け、戦後の経済発展を支えてきた企業システムや政府の仕組みは時代の変化に対応できないでいます。一方、地域コミュニティにおいても少子化、高齢化が進み地域力が低下し閉塞感が広がっています。

政府は日本経済の再活性化のための雇用創出型の構造改革を目指している。そのなかで、生活者に関わるサービスは、これまで政府がその主な担い手として市場をコントロールしてきました。

NPOを含めた民間の活力と  
比較的規模の小さな企業に期待！

しかし、厳しい財政制約下で、成熟社会の生活者の多様なウオントを（真の欲求）をよりきめ細かく柔軟に満たすためには、NPOを含め民間の活力を効果的に活用することが不可欠です。また、新たなウオントを顕在化させる事業の担い手は、大企業でなくウオントにきめ細かく応えられる比較的規模の小さな企業が中心であるとしています。

民間主体の新しい経済形態へ！

改革の時代にはそれによさわしい所得と時間の組み合わせが必要であり、個々人の働き方や暮らし方といった価値観にあった時間にとらわれない弾力的な働き方が必要となるとしています。不要な規制を撤廃して、民間主体の新しい経済形態のコミュニティビジネスに雇用創出の期待をよせています。

14年度コミュニティビジネス委員会

委員長 石原一夫

## ？ 「コミュニティビジネス」って何？

コミュニティビジネスについて明確な定義はありませんが、概ね次のように考えられます。企業のビジネスは利益追求思考で、生産性や効率性が求められますが、コミュニティビジネスは、利益追求を第一としないで地域を基盤にして、住民が主体となり、起業家精神をもって、地域で埋もれている人、物、ノウハウ、情報等の地域経営資源を活かして、自発的に地域の問題に取り組み、ビジネスとして解決し、地域を元気にする事業活動です。

社会の成熟化、複雑化に伴い、環境、教育、介護福祉、情報ネット、まちづくり、観光、商店街の活性化、特産物・食品加工、安全等の様々な分野で地域住民が問題に直面したときに発する「ここが困る、こうして欲しい」というささやきがコミュニティビジネスのシーズであり、このささやきに耳を傾けることがコミュニティビジネスのスタートです。コミュニティビジネスを起業するにあたって次の視点があります。

1. その事業活動に携わるメンバーの「生きがいづくり」になっているか。
2. 地域が抱える様々な問題の解決になっているか。
3. 地域の資源を活用し、雇用を創出し新しい協働関係を創造しているか。
4. コミュニティの元気づくりへの貢献と事業性のバランスが採れているか。

ということを十分吟味し、得意な生活領域分野から起業することです。また、組織形態についても社会目的性を持ったNPOやPFIの組織にするのか、株式会社や有限会社組織にするのかについても検討する必要があります。

## ★ 委員会活動について

商工会議所青年部網領にあるように私たちは先導者として、地域の経済的發展を図り、豊かな住みよい郷土づくりに貢献することを目的としています。

委員会ではコミュニティビジネスについての研修や先進地視察を行い、人格や、コミュニティビジネスのマネジメント能力を磨き、それぞれの地域でリーダーとして団体を組織し、新産業の創造や雇用の創出をすることを目指して活動を行います。

また、各ブロック大会等を通してコミュニティビジネスの必要性や素晴らしさを委員会活動報告という形で全国のYEGメンバーに知らせ、コミュニティビジネスが全国的な展開へと発展していくことを願っています。



## 「I(茨城)T(栃木)G(群馬)異業種交流事業」 ◆栃木工会議所青年部連合会会長 福田紳一

北関東三県(茨城・栃木・群馬)の県青年部連合会では、21世紀に即応した地域社会の建設を積極的に進める中で、三県間の情報交換をさらに蜜にし、交流・連携を深めるとともに、組織の充実を図ることを目的として、「I(茨城)T(栃木)G(群馬)異業種交流事業」を平成11年度から各県の持ち回りにより毎年開催している。

同事業は、当時の三県青年部連合会会長が、北関東自動車道【常磐自動車道(茨城県)～東北自動車道(栃木県)～関越自動車道(群馬県)全長約150km】の全線開通と常陸那珂珂(茨城県)の開港により三県が一層緊密になり、ビジネスチャンスが拡大することが予測されたことから県域の枠を越えた青年部会員間の交流事業を推進していこうと始めたもので、群馬県太田市で第1回を開催し、昨年は茨城県で開催された。

第3回となる今年度は、三県青年部連合会会員180名が栃木県佐野市に一堂に会し、地元佐野YEGのメンバーが中心となって企画運営を行った。当日は晴天に恵まれ、第1部は第一酒造・佐野厄除け大師の視察と会員親睦のためのゴルフ大会がそれぞれ行われ、参加者相互の交流を深めた。その後、第2部の講演会では「北関東地域の将来について」と題し、衆議院議員茂木敏充氏より、北関東東

自動車道による経済効果や国会等移転問題など、様々な角度から見た北関東地域発展の可能性について約1時間にわたり講演を頂いた。第3部の交流会では、異業種、異業種の参加者がそれぞれにテーブルを囲み親睦を深めるとともに、新しいビジネスチャンス発見のため積極的に交流を深め、情報交換を行い、盛会のうちに閉会した。



▲会場の様子

この事業を通じ、北関東三県の連携・友情の輪をより一層強固なものにできたと確信するとともに、将来様々な面でポテンシャルの高い北関東地域において、時代の変化に瞬時に対応し、新たなビジネスチャンスを掴みとることができるよう今後とも三県のネットワークを十分に活用し、県域を越えた事業を参加者全員が積極的に展開していく決意を新たにしました。

## 「商青連の生きる道・アントプレナーズ事業」 ◆兵庫県商会議所青年部連合会会長 木下一成



▲セミナー会場の様子

北関東三県(茨城・栃木・群馬)の県青年部連合会全国各地のYEGでも「若手後継者等育成補助金」を受けとられる事と思いますが、兵庫県商青連も平成13年度、同補助金を受けて「兵庫YEGアントプレナーズ事業」を実施してきました。商青連主催の京都セミナーへの参加を含めて5回のセミナー開催という内容ですが、京都以外はすべてオリジナルの企画でシリーズ展開のセミナーです。毎回、テーマに基づく基調講演の他に、実際に事業を起し成功されている社長をお招きして講演をいただきました。さらに「聞くだけ」では深まりが無いとの判断から、各回の最後には講師やゲスト社長と意見を交換し合う時間を充分に取り、自己啓発を図ってきました。さらに次年度以降も継続実施の予定です。

話は変わりますが、そもそも商会議所青年部の本来の役目、目的は何なので

でしょうか。もちろん、ただ集まり、親睦を深めるだけの団体では無いはず。また、地域には商会議所青年部以外にも青年団体は、色々あると思いますが、それら団体と同じ、もしくは後追いつくような活動を行っているだけでは、意味がないのではないのでしょうか。

地域経済の発展に貢献し、地域活性化に資することが我々の目的です。しかし、それは自分自身の研鑽ならびに自社の発展の上にとこそ、実現できるものであるはず。昨今の経済状況については、ここで触れるまでもなく、皆さんのご承知の通りです。しかし、我々YEGの「E」とは何なのか。今こそ「若きアントプレナーズ」として、我々は起業・創造、経営革新していくべきではないのでしょうか。

兵庫県商青連は、そのような思いで、アントプレナーズ事業をスタートさせたのです。また一方で都道府県から青年部に対する資金的補助が、各単会から広域な組織へとシフトしてきています。その是非は別れるところではありますが、都道府県連という組織の存在意義が問われているのではないのでしょうか。各都道府県連におかれては、是非この機会を活かし、有意義で活発な活動を展開していただきたい。規模的に単会ではできにくい事業実施も可能なはず。そして我々参加者は、そこで受けた知識や刺激を自身の事業、ならびに単会での活動に活かしてゆこうではありませんか。きっと、道を拓くことができると確信します。

## 「銭形まつり 賞金100万円!銭形踊りコンテスト」

## ◆観音寺商会議所青年部連合会

観音寺市では毎年夏の一大イベントとして「銭形まつり」を開催しています。このお祭りは、観音寺市のシンボルである銭形の砂絵にちなみ「銭形の街 かんおんじ」を広く全国に紹介するとともに、観光客の誘致を図り、産業・文化の発展に寄与することを目的として観音寺商会議所が発起人となって実施しており、今年で37回目を迎えようとしています。



▲銭形踊りコンテスト会場

このお祭りも、第30回までは総おどり中心のよくある盆踊り大会でした。しかし、時代の移り変わりと共にマンネリ化が進み、周りからは市の年中行事であるにもかかわらず「商店街の祭り」と苦言を呈せられていました。また隣隣の「よさこい鳴子踊り」のような、踊り自身が楽しめ汗を流している姿に「これが本来のあるべき姿なのではないか!」とメンバーも感じ始めていました。

そこで、我がYEGから「もう一度活気ある祭りにしよう!」と提言し、市内有志と特別委員会を組織し何度も議論を重ね、「市民が作り、市民が楽しむ、市民のための

祭り」を合言葉に新しい「銭形まつり」が出来上がっていききました。

そして、第31回日から商店街会場で「総おどり」に加えて、銭形の砂絵のある琴弾公園を舞台に、優勝賞金100万円の「銭形踊りコンテスト」、賞金総額100万円の潮干狩り型宝探しゲーム「銭あざり大会」など、観音寺らしい参加型のイベントが誕生しました。おかげさまで昨年は約5万6千人の方にご来場いただきました。現在、我がYEGは「銭形踊りコンテスト」と「花火」を担当しています。今年も、来る7月20日(海の日)に開催することが決定しました。現在出場チームを募集しております。あなたの町からも、賞金目指して参加してみませんか?



▲銭あざり大会の様子

### ●お問い合わせ

観音寺商会議所青年部までTEL(0875)25-3073  
E-mail yeg@kan-cci.or.jp  
銭形まつりホームページ <http://www.kan-cci.or.jp/zenigata/>

皆様のご意見お待ちしております!

このコーナーでは、全国の青年部メンバーからのざっくばらんな投稿をお待ちしております。お問い合わせは各県出向理事または商青連ホームページまで!

CONTENTS

- 会長・次年度会長挨拶 ..... 1
- 次年度役員紹介 ..... 2
- 次年度年間計画 ..... 2
- 新会頭からのメッセージ ..... 3
- 委員会報告 ..... 4
- YEGセレクション ..... 5
- 会長研修会報告 ..... 6
- コミュニティビジネスについて .. 7
- YEG見聞録 北から南から ..... 8
- 編集後記

### 後編 編集後記


全国の青年部のメンバー様、1年間お付き合いいただき、まことにありがとうございました。平成13年度の事業は、すべて終了しました。

この1年間、皆様いかに商青連を知っていたか、全国の情報をタイムリーにお届けできるかを考えて運営してまいりました。ただ、至らぬ点が多く、皆様には満足できない点が多々あったかと思いますが、ひらに「ご容赦」いただきたく、お願します。

次年度広報委員会は、加賀YEGの東口委員長をはじめ、強力な布陣で臨みます。倍旧のご支援をお願いします。

最後になりましたが、「翔生」発行に対して助力していただきました皆様に感謝申し上げます。

お詫の  
翔生31号2ページ、ブロック紹介に掲載致しました関東ブロック代表理事・辻博明君の写真が間違っておりまして、ご本人はじめ皆様にも大変なご迷惑をおかけ致しましたことを、心よりお詫び申し上げます。訂正させていただきます。



■ブロック代表理事  
辻 博明  
(栃木県)